

平成23年12月14日

各 位

会 社 名 株式会社サンオータス
 代表取締役社長 北 野 俊
 (J A S D A Q コード番号 : 7623)

問 い 合 せ 先
 常務取締役管理本部長 古 川 晴 男
 TEL(045)473-1211 (代表)

平成24年4月期第2四半期累計期間の業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成24年4月期第2四半期累計期間(平成23年5月1日～平成23年10月31日)の業績予想(平成23年6月20日付当社「平成23年4月期決算短信」にて公表)と、本日公表の平成24年4月期第2四半期累計期間の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成24年4月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異等

(1) 第2四半期累計期間(平成23年5月1日～平成23年10月31日)

(金額単位・百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前 回 公 表 予 想 (A)	15,800	120	110	35	11.00
実 績 値 (B)	16,723	△24	△27	△68	△21.55
差 異 (B) - (A)	923	△144	△137	△103	-
増 減 率	5.8%	-	-	-	-
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成23年4月期第2四半期)	15,149	130	120	33	10.38

(2) 差異が生じた理由

石油製品販売部門(ライフエネルギー事業部門)の売上高は、震災の後遺症による需要の後退によりSS(サービス・ステーション)におけるガソリンの販売数量は大幅な未達成となりました。同事業部直販課において、大口需要家向け軽油等の売上確保と、原油価格が高値圏で推移したことにより当初想定した販売単価を上回ったことも加わって、売上高は当初予想を上回りました。

輸入車ディーラー部門(カービジネス事業部門)では、国内の新車販売台数は震災直後の一時的な生産台数の落込みにより前年同期を大幅に下回りましたが、当社グループが販売する3ブランドの輸入車に関しては、各ブランドのニューモデルの販売促進に注力した結果、新車販売台数は計画台数を確保しました。

その結果、当第2四半期累計期間の連結売上高は16,723百万円(セグメント間の売上相殺消去前の売上高は16,846百万円)となり、当初計画を923百万円上回りました。

利益面においては、石油製品販売部門ではSS間の価格競争は依然として激しく、仕入価格上昇分をタイムリーに販売価格に転嫁することができない状態が恒常化し、利鞘の縮少を強いられるなど、終始厳しい状況下に置かれました。

輸入車ディーラー部門では、競合ディーラーに対抗するための販売促進諸施策の実施により粗利

益の低下を余儀なくされましたが、新車販売を中心に価格競争の影響を最小限にとどめることができました。

その結果、全体では営業損失24百万円を計上し、当初予想を144百万円下回りました。

営業外収支は当初予想からわずかながら改善しましたが、経常損失として27百万円を計上し、当初予想を137百万円下回りました。

店舗リニューアル等に伴う固定資産除却損失を特別損失に15百万円、法人税等を25百万円とそれぞれ計上した結果、四半期純損失は68百万円となり、当初予想を103百万円下回りました。

通期の売上高については、第2四半期累計期間では、ガソリン等の販売価格上昇を要因とした増加がありましたが、原油価格の先行きも不透明な状況であることに加え、燃料油の仕入価格や販売価格及び販売数量に不確定な要因があること、一方で輸入車ディーラー部門においては、12月よりプジョー車の販売に参入し新たな販売チャンネルを開拓するとともに、フォード車の新車種(クーガ)やニューエクスプローラーの発売、BMW車のニュー1シリーズやXタイプの投入及びジャガー車のニューXFタイプ等のニュー・モデルの販売が下期には本格的に軌道に乗り、販売増強に繋がるものと想定されること等を勘案して修正は行なっておりません。

また、利益面でも、燃料油販売及び輸入車販売にとって最大の需要期である第3四半期を迎え、上記による売上高及び粗利益の確保と、各事業部において期初から取組んできた新規出店や既存店舗のリニューアル等諸施策の販売促進効果が期待できること並びに下期を通じてグループを挙げて取り組む経費削減施策等の効果が反映されるものと判断しているため、当初公表予想値から変更しておりません。

2. 平成24年4月期第2四半期累計期間の個別業績予想と実績との差異等

(1) 第2四半期累計期間(平成23年5月1日～平成23年10月31日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想(A)	9,000	50	10	3.14
実績値(B)	9,261	△37	△62	△11.69
差異(B)－(A)	261	△87	△72	－
増減率	2.9%	－	－	－
(ご参考)前期第2四半期実績	8,466	66	24	7.81

(2) 差異が生じた理由

個別業績は、売上高は石油製品販売部門の連結業績において説明した内容が主な要因となり、当初予想を上回りました。

しかしながら、利益面では、特にガソリン販売における計画数量の未達成及び販売価格競争による利鞘の縮小と、車検・整備部門の売上未達成等の影響により、当初予想を大幅に下回り37百万円の経常損失を計上する結果となりました。

これに、固定資産除却に伴う特別損失及び法人税等を負担した後の四半期純利益も、当初計画を72百万円下回る△62百万円(四半期純損失)となりました。

通期の損益予想につきましても、通期連結業績予想と同様の見通しより、当初公表予想値から変更しておりません。

※ なお、連結及び個別の通期業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、今後様々な要因によって実際の業績は予想数値と異なる場合があります。

以上